

ご挨拶

近藤孝男[☒]

名古屋大学理学研究科生命理学専攻

昨年の理事会で理事長を再び拝命し、もう一年近くになります。ご挨拶が遅れてしまい申し訳ありません。私にとって大変光栄なことであるとともに、責任の重大さを感じているところです。頑張る所存です。どうかよろしく申し上げます。

さて、学会は多くの使命を担っていますが、研究の推進は最も重要なものでしょう。毎年の学術大会を魅力的なものとし、充実した議論が出来るようにしたいと思っています。言うまでもないことですが内容の充実には会員各位の協力が不可欠です。積極的なご提案をお待ちしております。

次に若い会員が国際的に活躍するための機会を提供することも学会の重要な目標かと思えます。若い会員の皆さんには積極的に海外へ挑戦して頂きたいと思いますが、多くの海外の研究者の参加を得て、国内で彼らと交流する機会を増やしていくことも重要です。特に、今後アジア各国で時間生物学の研究が増加することを考えると、日本時間生物学会は責任はますます大きなものになっていくと思えます。学術大会の段階的国際化、大会に併設した国際シンポジウムの支援などを行っていきたいと思えます。また、これからの時間生物学の担い手のための国際サマースクールの開催も大きな効果のあるものです。この企画はすでにSRBR, EBRISなど米国、欧州の時間生物学会と協力して行うことが合意され、2014年

7月には日本時間生物学会が札幌で開催し、多数の海外からの参加も得て、大変充実したコースが提供できました。ご協力頂いた皆さんに深く感謝するとともに次回以降の企画にも皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

一方で、学会の世代交代も重要な課題です。学会は時間生物学の成長期に設立されたため、世代交代のメカニズムを導入していませんでした。私も含め。創設時の会員が年長となり次世代の会員も増えた現在、早急に理事の再任規程や理事長の選考方法などを検討する必要があるかと思えます。

さて、いろいろなお願いばかり書いてしまいましたが、最後に時間生物学の面白さをもう一度考えてみたいと思えます。もちろんこれは研究者個人の問題ですが、なぜ時間生物学がここまで多くの研究者を惹き付けることが出来たのかを改めて認識することは大切なことかと思えます。私自身がこの研究に魅力を感じるのは、バクテリアから人類まで、自転周期24時間の地球の生息するための生命の必然と偶然を垣間みることが出来るかもしれないという夢なのですが、みなさんはどうでしょうか。

2014年10月2日

日本時間生物学会理事長 近藤孝男

☒kondo@bio.nagoya-u.ac.jp